



# 心臓財団 季報

# 報 No.169

財団法人日本心臓財団

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区-A  
Tel 03-3201-0810 Fax 03-3213-3920 e-mail:info@jhf.or.jp http://www.jhf.or.jp/

November 10, 2002

## 第28回日本心臓財団研究奨励決定

第28回日本心臓財団研究奨励事業に全国から102名の応募があり、大川真一郎東京女子医科大学教授を委員長とする選考委員会が9月27日に開かれ、下記に掲載の10名が選考されました。これは当財団事業の柱の一つであり、40歳未満の少壮研究者を対象に心臓血管病の成因、治療、予防等循環器に関するすべての研究領域から募集するものです。

奨励金はそれぞれ100万円で、贈呈式は来る12月3日に東京・銀行倶楽部において行われます。

本研究奨励は1975年に始まり、今回で350名、これまでの助成金額は3億2,600万円となりました。

選考委員長	大川真一郎	東京女子医科大学附属第二病院内科教授
選考委員	笠貫 宏	東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科学教授
(五十音順 敬称略)	片桐 敬	昭和大学医学部第三内科学教授
	倉智 嘉久	大阪大学大学院医学系研究科情報薬理学教授
	児玉 和紀	財団法人放射線影響研究所疫学部長
	下門 顕太郎	東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科血流制御内科学教授
	高本 真一	東京大学大学院医学系研究科心臓外科学教授
	友池 仁暢	国立循環器病センター病院長
	中澤 博江	東海大学医学部生体構造機能系生理科学教授
	横山 光宏	神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学教授

## 第28回日本心臓財団研究奨励 対象研究者

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題	留学先
1	石田 純治 (32歳)	筑波大学 応用生物化学系 助手	心血管系疾患におけるAPV受容体の生理機能に関する研究	
2	伊東 啓行 (37歳)	九州大学医学部 附属病院第二外科 助手	血管平滑筋細胞の増殖、遊走、細胞外基質産生におけるPROTEIN KINASE C (PKC) ISOENZYMEの機能に関する研究	
3	岡田 健次 (40歳)	神戸大学大学院医学系 研究科循環動態医学講座 呼吸循環器外科学研究分野 助手	移植後冠動脈硬化症進展におけるPPAR の意義	
4	小玉 博明 (39歳)	慶應義塾大学医学部 呼吸循環器内科 共同研究員	心臓粘液腫の成因に関する分子病理学的検討：未分化幹細胞の関与とその意義	
5	下村伊一郎 (38歳)	大阪大学大学院生命機能 研究科・医学系研究科 教授	脂肪細胞由来内分泌因子および脂質応答性転写因子の動脈硬化に対する影響の研究	
6	関根 道和 (31歳)	富山医科薬科大学 医学部保健医学 講師	3歳時の社会経済環境・生活習慣と小児肥満に関する10年間の追跡研究	
7	寺川 宏樹 (38歳)	広島大学大学院歯学総合研究科 分子病態制御内科学 助手	ヘリコバクターピロリ除菌の血管内皮機能に及ぼす効果の検討	
8	藤山総一郎 (33歳)	関西医科大学 第二内科学講座 大学院生	骨髄単球系細胞移植による内膜障害血管再狭窄予防を目的とした内皮再生医療	
9	水上 洋一 (40歳)	山口大学 遺伝子実験施設 助教授	心筋虚血時の細胞外シグナル伝達因子による体内環境シンクロナイズ機能	
10	横田 千晶 (38歳)	国立循環器病センター 研究所病因部 室員	局所脳虚血におけるプロスタグランジンの役割： 神経受容体機能・脳循環代謝との関連	

## 第7回日本心電学会学術奨励賞決まる

第19回日本心電学会学術集会在9月9日・10日の両日、名古屋国際会議場で渡邊佳彦藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院循環器内科教授を会長に開催され、10日の総会において当財団が後援している第7回日本心電学会学術奨励賞の授賞式が行われました。

これは日本心電学会の会員で、心電学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される40歳

未満の研究者に贈られるものです。

今回は石井 優(大阪大学大学院医学系研究科情報薬理学)、小川正浩(福岡大学医学部循環器内科)、田邊康子(旭川医科大学第一内科)が最優秀賞に、大内克洋(東京医科歯科大学生体材料工学研究所システム部門生体システム)が優秀賞に選ばれました。

### ホームページより セカンド・オピニオン/ 循環器専門医に聞いてみよう

「セカンド・オピニオン」は主治医以外のご意見を聞きたい方。「専門医に聞いてみよう」はとにかく専門医にご相談してみたいという方。その違いがよくわからないというご質問にお答えして、今回は各コーナーごとのお問い合わせをご紹介します。

Q

大学の頃に初めて胸が痛いと感じました。それから年に1度か2度あるかないかでしたが、最近はその痛い(どこが痛いというかわからないのですが)と感じる事が頻繁になってきました。他の症状としては、寝ている間でも普段の生活の中でも、突然リズムが狂ったように呼吸が苦しくなったり、お風呂から上がるとやはり苦しい(痛いとは感じません)と感じたり、階段の昇降時に痛いと感じたり苦しいと感じたりします。健康診断の尿検査や心電図では引っかかった事はありません。 30歳、女性

A

胸の痛みだけですと漠然としていて判断がつけ難いです。

胸痛の原因と主なものは・・・

1. 狭心症
2. 不整脈
3. 胸郭由来
4. 過呼吸症候群
5. 心臓神経症

などです。心臓財団のホームページにある『心臓病自己診断(心臓病チェックサイト)』で自己診断を試みて下さい。

痛みが運動をした時に起こり、止めれば止まる、痛みの持続時間が2～3分であれば、狭心症の可能性がありますが年齢的に考え難く、運動負荷心電図をとるとわかります。

痛みが瞬間であったり、何となしの不安感であれば、そのときの脈をみて下さい。乱れていけば不整脈です。ホルター心電図が役に立ちます。

胸が痛んだ時、痛んだ所を押して痛ければ、胸郭由来です。

突然苦しくなるというのは過呼吸症候群の時によくみられます。その前に空気が足りない感じがあります。

Q

はじめてメールします。私は、2年前の4月に頻度がで多源性の不整脈があると診断を受け、特に治療は必要がないとの診断を受けました。その後、今年の8月に胸痛と息苦しさ、脈の乱れや鼓動が早くなるなどの症状が40分位続き、病院に行ったところ『心房細動』のとの診断を受けました。しかし今回も、特に必要はないだろうということで、何も治療は受けていません。今でも5～10分位の心房細動が起こるのですが、本当にこのままにしておいて良いのでしょうか?何でもしていい(起こっている時以外)と言われているのですが、このような状態の時には、日常どの程度の運動と仕事をこなしても良いのでしょうか?ぜひ、教えて下さい。よろしくお願ひします。 32歳、女性

A

心房細動が時折起る状態を発作性心房細動といいます。発作性心房細動は基礎にいろいろな心臓病や身体の病気を伴うことがあり、その場合はこうした病気の治療が必要です。しかし、実はこれらの病気を伴うものは少なく、心房細動以外には身体の病気がないのが、通例です。貴方様の場合も、多分、病気をともなわない発作性心房細動なのでしょう。

病気を伴わない心房細動は発作のない時期はまったく健康ですので、何をしても構いません。発作が起こったときには少々辛いのですが、数分くらいならば、大丈夫でしょう。発作は寝不足、暴飲暴食、疲労などがきっかけとなります。日常生活の注意が第一です。発作がよほど辛い場合には、発作の予防薬を用いたり、発作があまり苦痛にならないように心拍数を抑える薬を用いたりします。一旦起こると、48時間以上つづくといったことを繰り返していると心房内に血栓ができて、脳に飛び、脳梗塞を起こすことがあります。このため、このように長くつづく発作がある場合には、心房細動を起りにくくする薬を用いたり、あるいは血栓形成を予防する薬をもちいたりします。

現在の程度の起こり方であれば、このまま様子をみましょうということになるでしょう。

## 第3回エコー・ウォーカソン2002イン横浜開催

当財団に4,588,000円寄付



歩くことによってチャリティに参加できるというウォーキング運動のエコー・ウォーカソンが、10月20日(日)昨年の第2回大会に続いて横浜で開催されました。

終日雨という天気予報にもかかわらず、当初申込者の8割強の参加者が全国より集まりました。大会中は曇り空でしたが、雨も降らず、暑からず、寒からずといった歩行日和でした。今回は9時30分、11時30分の2つに分かれての出発で、スタートとゴールは昨年と同じく国際会議場パシフィコ横浜でしたが、コースは若干異なり、臨港パーク、横浜ジャックモール、横浜美術館の通りを加え、自動車道、合同庁舎それに横浜スタジアムを回り、元町通り、外人墓地、港の見える丘公園、山下公園、赤レンガパーク、新港パークを歩くといった全行程10kmでした。



到着後、実行副委員長の阿久根英昭氏(桜美林大学健康心理学科教授)のもと、同大学学生の協力を得て、体力測定が行われ、長蛇の列ができました。またパルーンアートの実演、三浦、横須賀地区で活動している「和太穂」と「三崎高校太鼓部」による三浦太鼓が披露されました。



「歩くことは心臓の強化につながる」という大会主旨のもと、心臓病で苦しんでいる人のために役立てようと、チャリティ金は、今年の第3回大会も第1回の東京、前回の横浜に続いて当財団に寄付されました。チャリティ方法は、1km歩くごとに100円、10km完歩すると1人あたり1,000円が寄付されるもので、今回は4,588名が完歩し、エコー・ウォーカソン実行委員長の山中静哉氏(アキレス株式会社社長)より4,588,000円が当財団の杉本恒明副会長に手渡されました。これを受け、杉本副会長より「本日参加された方は、3つよいことをされました。1つは10km歩いたことにより心臓病から遠ざかり、健康が得られたこと。2つめは海を眺めながら美しい横浜の町を歩けたこと。3つめはチャリティをすることで社会貢献できたこと。」といった挨拶と会場に集まったウォーカーの方々に感謝のことばとお礼が述べられました。



本大会には地元から村山正博当財団評議員も参加され、杉本副会長とともに10km歩かれました。また村山評議員が現在センター長をされている横浜市スポーツ医科学センターの協力を得て、事故に備え、医師、看護師の方に歩行中待機していただきました。幸い靴擦れ程度で大きな事故もなく無事終わることができました。

来年は、横浜のほかに神戸、函館でも開催の計画があるようです。機会がありましたら、奮ってご参加いただき、チャリティにご協力ください。

## 初めて海外留学する研究者に 1人300万円を10名に助成

協力：バイエル薬品(株)

初めての海外留学で、独創的な研究や萌芽的な研究を行う循環器領域の少壮研究者10人に1人当たり300万円の助成(総額3,000万円)を行っています。応募は、35歳未満の日本人で、すでに留学先の承諾を得ており、2003年度中に出発し、1年以上留学することなどが条件となっています。応募期間は11月30日までなので、希望者は至急当財団までお問い合わせ下さい。

## 心血管病の研究者に助成

テーマ「心不全の病態形成と新しい治療法の開発」

協力：ファイザー製薬(株)

心血管病の研究を行う40歳未満の研究者を対象に助成を行います。今回のテーマは「心不全の病態形成と新しい治療法の開発」で、ポスター展示発表により優秀課題12件を選考し、それぞれに50万円、さらに12件の中から翌年の研究発表会で最優秀課題4件に各200万円を助成します。原則として臨床系教室および病院に所属する人が対象です。

応募締切は12月16日です。

## 循環器の分子生物学的研究者に 1人100万円を10名に助成

協力：ゼリア新薬工業(株)

循環器領域で分子生物学的研究者の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の研究者10人に、1人当たり100万円の助成(総額1,000万円)を行っています。臨床教室およびそれに準ずる施設で研究をしている人が対象です。また過去にこの助成を受けられた方はご遠慮下さい。

応募の期間は本年の12月15日から来年2月15日です。

## 秋の叙勲

平成14年秋の叙勲で川島康生氏(当財団常任理事)が勲二等旭日重光章を受章されました。

## 役員人事

理事アンソニー・ウィン氏より辞任の申し出があり、後任に栄木憲和氏(バイエル薬品株式会社社長)が8月21日より、評議員クリストフ・ホーバツハ氏より辞任の申し出があり、後任に小林建俊氏(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社副社長)が9月18日より就任されました。

## ご支援ありがとうございます

### 当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2002年9月～2002年10月)

佐川 清 様	茨城県常陸太田市	30,000円
河野 伸 様	茨城県常陸太田市	100,000円
藤枝 進 様	茨城県水戸市	15,000円
田中照吾 様	茨城県笠間市	30,000円
匿名		200,000円
野々上 進 様	東京都小金井市	105,000円

### 当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。

(敬称略：2002年8月7日～10月31日)

相澤 義房	岸本 幹夫	代田 浩之	中谷 晴昭
池田 孝之	木原 康樹	鈴木源次郎	永野 允
大島 文雄	クリストフ・	高木 宏	生田目茂子
大和田憲司	ホーバツハ	武田 忠直	林 直彦
カンダジュンイチ	坂本 三哉	田中 弘允	松原 達昭

## 心臓財団からのお願い

～ご寄付ならびに賛助会ご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円でも何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597  
宛て先 財団法人日本心臓財団



お近くにお越しの際は、お立ち寄り下さい。

当財団は地球環境保護を重要と考え、この季報には再生紙を使用しております。